

中野P・たかちゃん @ 坂主字音の



国際交流基金・日本語パートナーズ / インドネシア レポート

★2015年10月号

Selamat siang! Apa kabar? こんにちは！ お元気ですか？

インドネシアに来て、あっという間に2か月が過ぎてしまいました！（早すぎる）今日は少し時間ができたので、報告書を書きながら頭の整理をしたいと思います。

1. 犠牲祭について

今年の9月25日はムスリムのビッグイベント、犠牲祭でした。

やぎ、または牛をお祈りしながら（アラフアクバルと唱えながら）、屠殺する儀式。

SMKN 20の学校でもその儀式を行うというので見にいきました。

先生や男子生徒が牛の足と首をロープで縛り、横に倒してから頸動脈を切って血を抜きます。

その後、皮をはいで、内臓を取って、肉を切り落として・・・あっというまに食肉になっていきます。

いつも何気なく食べているお肉だけれど、「命をいただいているんだな」と改めて食にたいして感謝する一日となりました。「食育の一環」といったところでしょうか。

そのほか、ムスリム伝承の中で、この日は神様への信仰心を新たにする日であったり、

貧しい人もこの日は食事がとれるように、みんなでお肉を分け合う日だったり、いろんな意味があるそうです。

最初は怖い儀式だと思っていましたが、実際に見てみると、屠殺を行う男性陣は真剣そのもので、

とても神聖なものに思えて不思議と平気でした。



犠牲祭の様子

2. 文化紹介（のりまき、お茶、ゆかた・着物、アルプスいちまんじゃく、おおきなくり）

10月はクラスで、日本語クラブで、地域の日本語学校でなど、いろいろな形で日本文化紹介をする機会がありました。なかでも、のりまき作りは、ハプニングあり、わらいあり、感動あり、とっても印象に残る出来事がたくさんありました！（笑）

～ハプニングあれこれ～

@ SMKN 20

- ・「のりを買ってきてね」と言ったら、巻きずし用の「のり」ではなく、韓国の味付きのり（しかも手のひらサイズ）を買ってきた。
- ・日本食スーパーで「すしの素」を買ってきた生徒がいたが、「すしの素」の中にお酒が入っていることが判明し、途中までつくったお米、すしを全部捨てることになった。
- ・出来上がったのりまきを職員室の先生にあげたところ、「この紙はなに？」とのりをはがして食べ始めた。（それは紙ではありません。食べられますと説明）

@ SMKN 37（ここは調理科のクラスがあるので調理器具をかりることができた）

- ・炊飯器を借りてお米をたくことになり、お米を洗っていたら、水道の水が急にでなくなった。→ほかの水道2か所も水がでないので、お祈り前に手足を洗う用の水でお米を洗う。（飲める水？ときいたら「飲めない」って言われたけど Tidak apa)



2回といたところでこの水もでなくなる

→とぐのをあきらめ、アクア（食堂に1つ設置してあるのみ水用のタンク）の水を使って炊く。

・たまご焼きを作ろうと思ったら、生徒が先にオムレツにしていた。

（ま、細く切れれば寿司ネタにはなるか。Tidak apa apa）

・いつもの教室にできた具を運んで、準備ができたところで、ジムの人から

「この教室は今からPCチェックがはいるから移動してくれ」と言われ、教室を移動

・私が見本で巻きずしをひとつ作ってからは、それぞれ生徒たちが作り始めるも、大騒ぎ。



生徒が作ったのり巻

生徒「具がないから先生のだまごちょうだい」

「先生の包丁かして」（いろいろ Pimjam(借りる)されていく私の食材と道具たち）

先生「校長先生の分も作ってください」

（いろいろ Pimjam されているので道具がありません、ちょっとまってください・汗）

他の先生「なにになに？お寿司つくってるの？私もやろう！」（あ、先生も飛び入り参加ですか？どうぞ、どうぞ！

でもちょっとまって、のりが裏表逆です・・ごはんがおおすぎたかも・・そしてごはんめっちゃ潰してる・・）

インドネシアにはロントンと呼ばれる、ご飯をつぶして固めたチマキのような料理があり、ご飯を巻く=つぶすというイメージがあるのかも。

なにが起きても「tidak apa apa(大丈夫、気にしない)」の精神が大事です。笑

ハプニングだらけののり巻きづくりでしたが、

生徒たちは協力して楽しそうに作っていたのが

何よりよかったです。寿司の具やソースを自分たちなりに工夫していて

中にはお店に出せそうなほどきれいに盛り付けているグループもあり、

感動させられました。



その他、授業では、ドラえものの歌を歌ったり、「大きな栗の木の下で」を歌ったり、アルプスいちまんじやく、だるまさんがころんだ、トイレの花子さんの話（インドネシアの高校生はおばけ大好き！）、おりがみで羽ばたく鶴、日本のお金、などを紹介しました。

学校外では、ブカシの日本語学校で、茶道の紹介をしました。私は司会、ほかのNP（日本語パートナーズ）は茶道のデモンストレーションや生の着付けの手伝いなど、役割分担をして臨みました。

お茶を習っている人、煎茶道のインストラクター、お茶菓子が作れる人、習字の達人などなど、ここには才能あふれる日本人がたくさんいます！日本人8名、力を合わせて日本の「おもてなしのこころ」を伝えました。

（伝わってたらいいな。）

参加してくれたインドネシア人、みんなが甘くないお茶を「おいしい」と言って飲み干してくれたので、うれしかったです。冷たい煎茶はお代わりをする人もいたくらいでした。



学校でバティック作り体験



3. 今月のじゃらん・じゃらん

週末の休みを使ってNP（日本語パートナーズ10人＋インドネシア人1人）でTidung島に行ってきました！Tidung島はジャカルタの北にある島々（Pulau seribu:千の島とよばれる）の中の一つで、ジャカルタから船で1時間ほどのところにあります。

1泊2日のプランで人生初のシュノーケリングとバナナボートを楽しみ、とれたての魚を刺身でいただき、BBQを楽しみ、夕日をバックに青春のスナップ写真を撮り、朝日を眺めて自然の美しさに感動するという思いで深い2日間となりました。

インドネシアでは有名な観光スポットですが、日本ではまだまだあまり知られていないようでした。

中国人はいましたが、日本人には会いませんでした。

これはぜひ、紹介したい、穴場スポットです。コテージ（宿泊棟）1棟を貸し切ってセルラスキャンプとかできたら楽しそう！と妄想が膨らみます。笑

他にも、近所の同い年のお姉さんに動物園に連れて行ってもらったり、

学校の先生とボゴールへ一泊旅行に行ったり、休みの日も充実した毎日を過ごしています！



Tidung 島
夕日をバックに

～おまけ～

インドネシアに来てできるようになったこと

- 1、 インドネシアの乗り物（アンコット、メトロミニ、コパジャ、バジャイ）に一人で乗れるようになった
- 2、 運転手に道案内しながら家まで帰れるようになった
- 3、 レストランやファーストフードで注文できるようになった
- 4、 持ち帰りをオーダーできるようになった
- 5、 病院で症状を伝えて薬がもらえるようになった
- 6、 手桶式のトイレで用が足せるようになった
- 7、 スーパーでお肉や野菜を好きな分だけ切り分けてもらって買えるようになった
- 8、 炊飯器でラーメン、おでんが作れるようになった
- 9、 インドネシア料理（ルンダン、カンクン炒め）が作れるようになった
- 10、 スンダ語で挨拶ができるようになった（私のアパートのスタッフはみんなスンダ人でスンダ語を話す）
- 11、 部屋に cecak（ヤモリ）がいても気にせず寝られるようになった。
- 12、 クラスの生徒の顔が認識できるようになった（いままで全員同じ顔に見えていたのが識別できるようになった）